

わが国宇宙開発・利用体制の改革と宇宙利用フロンティアの拡大」の概要

わが国宇宙開発の直面する課題

わが国宇宙開発への信頼の回復 (H- ロケットの打上げ失敗により、わが国宇宙開発そのものに不信感)
 欧米宇宙産業に「勝てる宇宙産業」の創出 (技術は追いつきつつあるが、コスト、納期、実績で大きな差)

宇宙は、陸・海・空に次ぐ「第4のインフラ」
 として国民生活に定着

気象衛星、衛星通信、BS・CS、カーナビゲーション等

開発から利用の時代へ
 急速に進む宇宙の商業利用

《世界の宇宙市場の予測》
 1998年 2010年
 10.5兆円 40.2兆円

国の危機管理、
 災害・環境監視、
 安全保障等への
 国民の関心の
 高まり

欧米は、宇宙産業の
 競争力強化を官民
 一体で戦略的に推進

米国：国家宇宙政策
 欧州：欧州長期宇宙計画

宇宙開発・利用の意義・体制・政策を根本から問い直すべき

1. 宇宙開発・利用の意義を明確化

- (1) 人類全体への貢献：新しい科学的知見の獲得、地球環境問題等への取組み、人類のフロンティア開拓への参画等
- (2) 国益の追求：科学技術の基盤強化と技術革新による新産業の創出、社会インフラとしての宇宙利用の拡大による国民生活の質的向上、宇宙産業の国際競争力強化による経済・雇用の拡大、国民の安全と安心の確保、国際協力を通じた外交政策等への寄与

従来は宇宙科学や研究開発が主 → 経済、安全保障上の意義を明確化

2. 宇宙開発体制の改革

信頼性向上への取組み

- (1) 地上実験・宇宙実証機会の増加
- (2) もの作りへの責任ある取組み(企業)
- (3) ITを活用した宇宙CALS等の構築・拡充

宇宙開発事業団の機能の抜本的改革

- (1) 目的を「宇宙の開発・利用を通じた社会への貢献」とし、「宇宙の産業化」と「宇宙インフラの整備」を視野に入れた活動
- (2) 機能を宇宙プロジェクトの企画、立案、管理および管制運用に集中・強化
- (3) 研究は関係研究機関のリソースを活かし、連携を強化
- (4) 「もの作り」(設計・製造等)は企業の責任において行える体制へ

3. 国家的宇宙政策の策定

政府横断的かつ総合的な宇宙政策への転換

- (1) 次期科学技術基本計画での宇宙の位置づけ - 情報通信、ライフサイエンス、材料、環境に並ぶ位置づけに
- (2) 総合科学技術会議での宇宙の取組み強化 - 科学技術政策における宇宙の位置付け、産業競争力強化を基本とした政府横断的な宇宙政策の基本方針を審議、策定

4. 国としての取組み

(1) 「宇宙の産業化」

産業化につながる研究開発の推進

- (a) ロケットの改良・開発の継続と関連技術の維持
 - (b) 衛星の技術水準の向上および経済性の向上の追求等
- アンカーテナント政策の採用
民間への技術移転の促進

(2) 「宇宙インフラの整備」

「勝てるIT宇宙インフラ」を構築

統合情報セキュリティー・ネットワーク(危機・災害の早期情報収集、予知、通信網の確保等)
 地球環境の改善・維持・蘇生ネットワーク(地球温暖化等の地球環境変動の解明、予測等)
 アジア国際協力衛星ネットワーク(アジア地域の国土管理、災害監視等)

5. 産業界としての取組み

- (1) 新産業・新事業の創出
- (2) 競争力強化と戦略的な企業間連携
- (3) IT化の推進と宇宙CALS構築・拡充への協力

国民生活の質的向上
 と産業競争力強化